



〔海の状況 (9/16~10/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 9月中は神子平年よりはなはだ高め(平年差1.5℃~)~かなり低め(平年差-1.5℃~1.0℃)で推移したが、以降は概ねやや高め(平年差-1.0℃~-0.5℃)で推移した。(図1)
※神子平年は、1988年~2017年の神子地先の平均値
- ・米ノ地先の表面水温… 9月中ははなはだ高め(平年差1.5℃~)~はなはだ低め(平年差~-1.5℃)で推移したが、10月中は平年並み(平年差±0.5℃)~かなり低め(平年差-1.5℃~-1.0℃)で推移した。(図2)

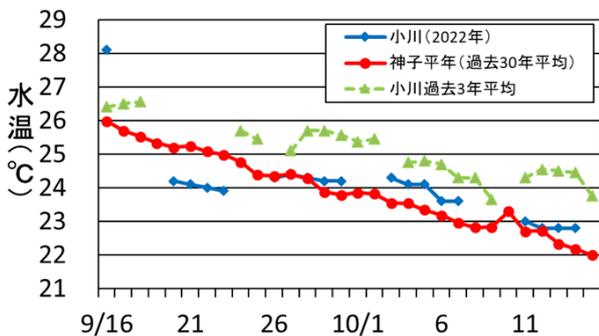


図1 若狭町小川地先における表面水温の推移

※小川過去3年平均は2019年~2021年の小川地先の平均値であり、2年以上の水温データが揃った日のみ取り扱っている。

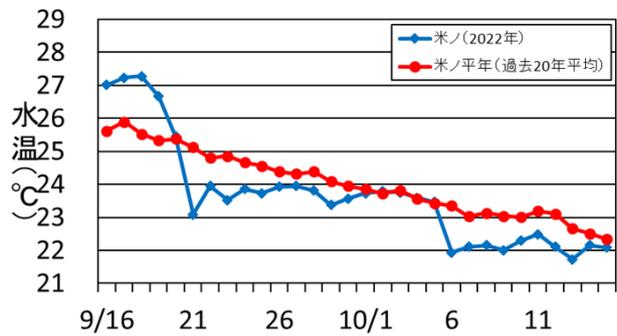


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

〔若狭湾および周辺海域の海況：9月〕

9月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、昨年同時期に比べ、表層(水深0m)では、若狭湾沿岸で28℃~の範囲が大きくなっていた。水深50mでは、若狭湾沿岸で22℃~24℃の範囲が小さくなっていた。水深100mでは、若狭湾北西沖で6℃~12℃の冷水塊が確認された。水深200mでは、若狭湾沖で2℃~4℃の範囲が前年より大きくなっていた。(図3)

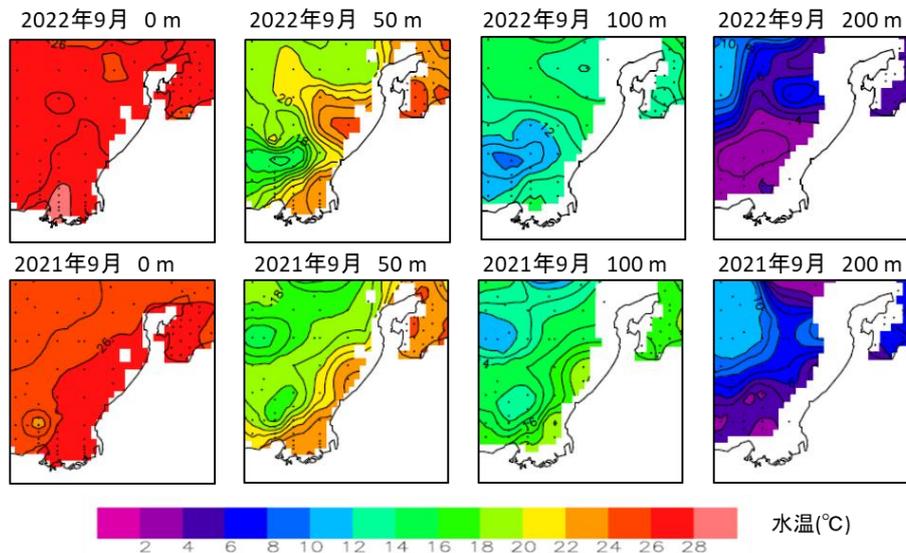


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (水産研究・教育機構の日本海漁場海況速報より抜粋)

(漁場環境グループ 岩崎 俊祐)

2022年度 第3回 日本海海況予報

国立研究開発法人 水産研究・教育機構から発表されました10月中旬～12月の予報のうち、本県に関する情報を抜粋してご紹介します。

- 山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、規模はかなり大きく、接岸状況はやや接岸で経過する。
- 対馬暖流域の表面水温は、平年並みで経過する
- 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部は平年並み、北部はかなり高めで経過する

この予報は国立研究開発法人 水産研究・教育機構のホームページ ([プレスリリース | 水産研究・教育機構 \(affrc.go.jp\)](https://www.affrc.go.jp)) で閲覧できます。 (漁場環境グループ 梶原 大郁)

〔県内の漁模様：9月〕

2022年9月の県内の総漁獲量は899 tで、前年同月(694 t)を205 t上回った。

〔定置網〕

漁獲量は682 tで、前年同月を282 t上回った。サバ、ブリ類、シイラ、カマス、フグ類が大きく上回り、サワラは下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は180 tで、前年同月を74 t下回った。キダイ、カレイ類、ニギス、アカエビが下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は37 tで、前年同月並みであった。メバル類、スルメイカ、メダイは上回り、タイ類、アマダイ、タコ類は下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(9月)

定置網 (kg)						底びき網の続き (kg)					
魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差	魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
イワシ類 計	1,140	2,340	2,543	-1,200	-1,404	カレイ類 計	40,810	49,371	98,705	-8,561	-57,895
ウルメイワシ	918	1,460	667	-542	251	(アカガレイ)	30,337	36,710	72,787	-6,373	-42,450
アジ類 計	40,852	20,778	38,961	20,073	1,891	(その他カレイ)	10,473	12,662	25,917	-2,189	-15,444
(アジ)	9,879	4,048	9,933	5,831	-54	アナゴ	3,765	3,665	5,142	100	-1,376
(小アジ)	28,880	14,507	27,391	14,373	1,489	メバル類	1,313	1,508	1,304	-195	8
(アオアジ)	2,093	2,224	1,637	-131	456	ニギス	15,683	30,100	14,237	-14,416	1,446
サバ	45,577	1,491	16,099	44,086	29,478	その他イカ	1,565	76	438	1,489	1,127
マグロ類	1,572	341	1,113	1,232	460	タコ類	916	2,364	4,926	-1,448	-4,010
カジキ類	5,846	4,950	6,344	896	-498	アカエビ	69,547	95,254	73,341	-25,707	-3,794
カツオ類	553	6,665	2,420	-6,111	-1,867	その他エビ	9,157	6,363	5,549	2,794	3,609
ブリ類 計	72,292	25,548	85,081	46,745	-12,788	その他	29,161	47,493	69,876	-18,332	-40,715
(ブリ)	41	31	115	10	-74	合 計	179,676	253,939	287,106	-74,263	-107,429
(ワラサ)	2,455	2,775	1,978	-320	477	釣り、延縄、さし網、その他の漁法 (kg)					
(ハマチ)	2,349	1,544	11,791	804	-9,442	魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
(ツバス)	63,593	13,247	48,555	50,346	15,038	タイ類 計	6,870	9,504	8,688	-2,634	-1,818
(アオコ)	3,854	7,950	22,641	-4,096	-18,787	(キダイ)	6,114	8,128	6,925	-2,014	-810
シラマサ	2,292	1,415	7,811	877	-5,519	アマダイ	2,317	4,954	4,011	-2,637	-1,694
シイラ	274,963	131,187	144,116	143,776	130,847	メバル類	2,051	774	2,146	1,277	-95
サワラ	135,524	172,349	459,785	-36,825	-324,261	スルメイカ	5,326	1,249	8,568	4,077	-3,242
タイ類 計	3,076	2,887	3,516	189	-440	アオリイカ	719	471	1,111	248	-392
(マダイ)	1,195	1,329	2,027	-134	-832	タコ類	735	3,294	3,133	-2,559	-2,398
スズキ	1,909	1,539	2,159	370	-250	アワビ	363	784	660	-421	-297
カマス	22,953	2,092	13,439	20,861	9,514	メダイ	2,112	942	920	1,170	1,192
フグ類	41,518	3,020	4,222	38,498	37,296	サザエ	3,663	3,243	3,871	420	-209
アオリイカ	5,347	6,429	7,684	-1,082	-2,337	その他	13,011	14,348	27,249	-1,337	-14,238
ケンサキイカ	4,507	5,818	4,371	-1,311	136	合 計	37,167	39,562	60,357	-2,396	-23,191
その他	21,299	10,226	16,293	11,072	5,006	全漁法 (kg)					
合 計	682,139	400,535	816,623	281,604	-134,484	魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
底曳網						合 計	898,981	694,036	1,164,085	204,945	-265,104
魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差						
アジ	1,590	271	448	1,319	1,142						
タイ類計	6,168	17,473	13,140	-11,306	-6,972						
(キダイ)	5,758	16,582	11,782	-10,824	-6,023						

※1 平年の値は2012～2021年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄です。その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。
 ※3 アワビ、サザエ、メダイの平年値は2014～2021年の8年平均です。 ※4 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：9月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：9月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：9月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：9月中旬～10月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)
 石川県…定置網…サバ3.6 t、フクラギ・コゾクラ1.7 t、シイラ1.6 t、ウルメイワシ1.2 t、マアジ1.1 t
 京都府…定置網…マアジ1.2 t、サワラ類1.1 t、ツバス1.1 t、サバ類0.8 t、アオコ0.6 t、シイラ0.5 t
 兵庫県…定置網…トビウオ146 kg、マアジ111 kg、シロイカ33 kg、ツバス14 kg、スズキ14 kg、カマス10 kg
 鳥取県…まき網…ウルメイワシ14.0 t、ブリ類8.8 t、マイワシ4.9 t、マサバ3.4 t、マアジ0.9 t

(漁場環境グループ 梶原 大郁)

「越前がに」の資源状況について

今年も、11月6日に福井が誇るブランド「越前がに」漁の解禁を迎えます。6月に調査船「福井丸」で実施したトロール調査結果等を基に、本県沖合のズワイガニ資源量を推定しましたので、お知らせします。

漁獲動向（図1）

福井県のズワイガニ漁獲量（県底曳網漁業協会集計）は、最低であった昭和54年度以降は増加傾向となり、近年は400t前後で推移しています。令和3年度の漁獲量は358tで、セイコガニの漁獲が好調に推移したことにより令和2年度を40トン上回りました。

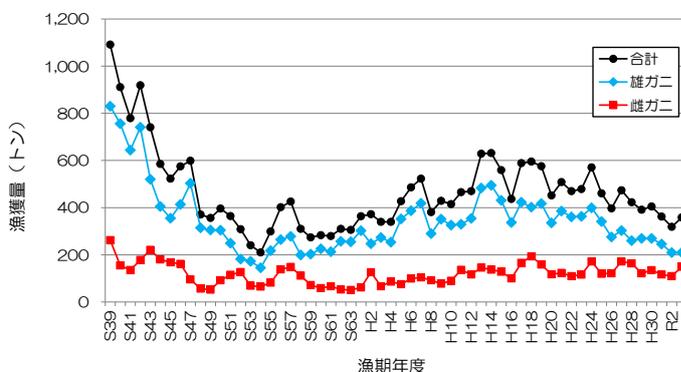


図1 ズワイガニ漁獲量経年変化

資源状況（図2）

雄についてみると、今漁期の漁獲の主体となる12歳・13歳は、資源水準の低かった年級群であり、昨漁期の取り残しが対象となるため少ないものの、今漁期から小型の水ガニとして漁獲の対象となる11歳の資源水準は昨漁期より高い状況にあると考えられます。今漁期に漁獲対象となる雄の資源量を推定したところ、2,026tと算出されました。

雌についてみると、資源量が高かった年級群が漁獲対象に加わったことにより、今漁期の漁獲対象となるクロコ（経産ガニ）の資源水準は高く、資源量を推定したところ963tと算出されました。

また、雄雌ともに、来漁期以降に加入する10歳未満の資源水準も比較的高い見込みであることから、これら若齢個体を保護することが大切になります。

漁模様

資源状況から今漁期のズワイガニ漁獲量を予測すると、

雄は“昨年をやや上回る”

雌は“昨年を上回る”

と見込まれます。

（漁業管理グループ 松宮由太佳）

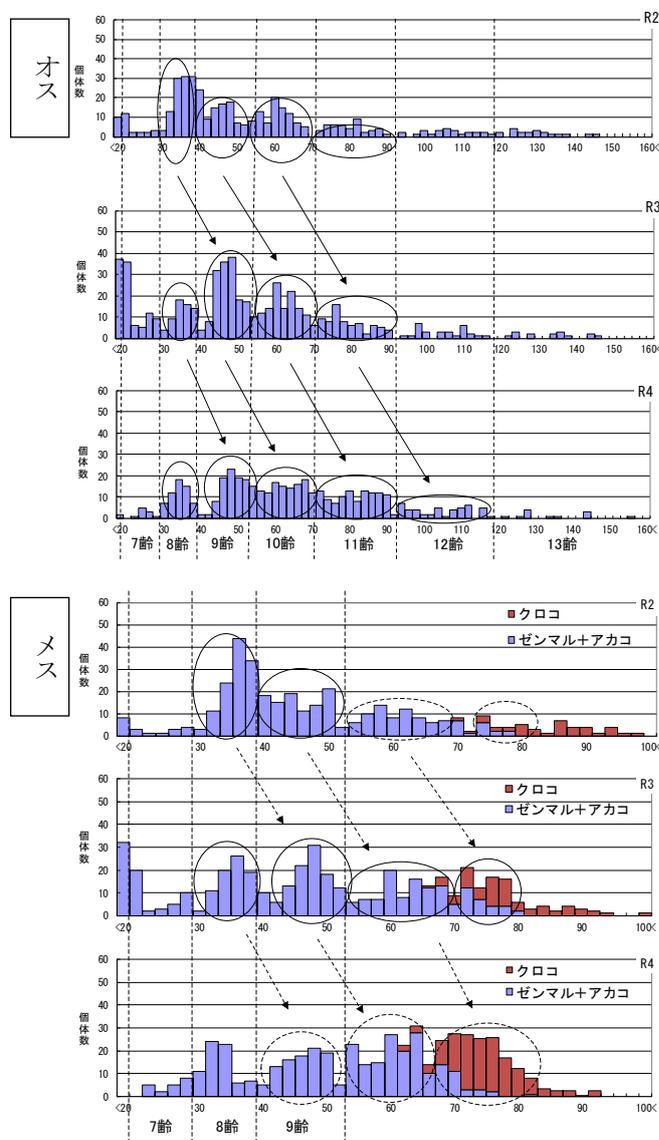


図2 トロール調査で採集したズワイガニの甲幅組成
（横軸：甲幅 mm 縦軸：個体数）